

Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care



NASHIM

Vol.43
2018

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会通信

Contents

- 韓国への専門家派遣事業を実施しました。
- 韓国医師等の受入研修を実施しました。
- 冊子「漫画で学ぶ長崎原爆」を作成しました。
- 「第12回永井隆平和記念・長崎賞」推薦の募集



グラバー園にて

韓国専門家派遣事業のセミナーに参加して

長崎大学 原爆後障害医療研究所 アイソトープ診断治療学研究分野 教授 **工藤 崇**

第2回韓国専門家派遣事業は、2017年12月3日（日）および4日（月）の二日間にわたり、原研国際の高村昇教授と共に韓国・テグを訪問した。ナシム事務局の西さんと、通訳の朴明玉さんとの4人での訪問となった。

テグの人口は約252万人でソウル、釜山と共に韓国を代表する3大都市の一つである。

テグは東西南北が山に囲まれた盆地で、夏と冬の温度差が激しく雨が少ない気候のため、りんごの産地としても有名である。

また朝鮮時代から韓国一の漢方薬材売上の市場があり、毎年5月には漢方文化祭が盛大に開催されるという。

テグでのセミナー開催は2年前に嶺南大学病院を永山教授と宮崎教授が訪問されたが、その際は福岡空港から釜山空港まで飛行機で飛び、その後テグまでは陸路で2時間ほどかかった。今回は福岡空港よりテグまでの直行便を利用した。福岡空港を午後4時に出発した飛行機は1時間ほどでテグ空港へ到着した。日曜の夕方とはいえ市内の道路は大変込んでいた。それでもテグ国際空港は市内に近いことから、タクシーは30分ほどで宿舎に到着した。初日の夕食は通訳の朴さんの案内でホテル近くの焼肉屋に行った。観光客はあまり来ない、地元人で賑わう豚肉専門の庶民的な食堂で美味しくかつ安く食事することができた。

翌日12月4日の朝、大韓赤十字社の担当者の呉尚恩さんと李美英さんと会場となる郭病院のロビーで合流し、看護部長の姜さんとチーム長の崔さんに出迎えていただいて、先ず院長室を訪ねた。

郭病院は朝鮮戦争直後の1952年に医者1名、補助1名、看護師1名、病床4つから開院され、以来65年の歴史のある民間の病院である。

院長の郭東協先生と副院長のキム・ソンジン先生はご夫妻でこの病院を運営しているとのこと、現在は医師が25名いるとのことであった。

郭病院は消化器病分野の特化センターが本館6階にあり、診療と検査がワンストップで行われており、患者さんの負担を減らす工夫もされていた。

病院内には医師と看護師からなるボランティアグループが4つあり、無料診療、老人ホームの手伝いなどを行い地域に親しまれているとのこと。

看護部長の姜さんとチーム長の崔さんに病院内を案内していただいた。現在の郭病院は14の診療科を有し、ベッド数は268床である。新しい外来棟は外観も内部も大変きれいな病院であった。また、病棟の廊下の壁には詩が書かれた美しい絵が多く飾られて、患者さんや外来客の心を和ませたいという配慮が伝わってきた。

12時30分より、ランチオンセミナーが開催された。セミナーには、医師・看護師をはじめとした病院スタッフ約40人に集まっていた。先ず、高村教授が「福島第一原子力発電所事故からの復興の現状」と題して講演を行った。講演では、福島県における内部被ばくの線量についての説明と、内部被ばく対策

についての食品管理の状況が説明された。また、甲状腺の内部被ばくに関するチェルノブイリと福島の違いが説明された。

続いて、私が「医療における放射線の利用、そのリスクとベネフィット」と題し、講演を行った。私からは、主に、

- 一、医療被ばくは公衆の被ばくの最も大きな要因であり、これに伴うリスクが世界的に大きな注目の的となっている。
- 二、医学における放射線の利用は利益とリスクの両面を持つ。確率的影響のみではなく、確定的影響の問題も考慮しなければならない。
- 三、正当化と最適化のルールに従って利用しなければならない。不必要な検査は避けなければならない。ということを説明した。

講演終了後、郭病院長から英語で講演に対する感想とお礼があった。

最近、韓国では核と原子力に関しての関心が一段と高まっているとのこと。隣国である日本の福島原発事故と北朝鮮の核実験や絶えないミサイルの発射が大きく影響しているのか、参加した医療関係者の皆さんは大変真剣に聞いておられた。

今回の韓国訪問では、少しではあるが参加された皆さんの核や放射線に対する心配をうかがうことができ、改めて本事業の重要性を認識することができたように思う。

最後になりますが、今回のセミナー開催に当たってご尽力いただいた郭病院の皆様、大韓赤十字社の皆様に御礼を申し上げます。



郭病院 郭院長（高村先生の右隣）・スタッフと

韓国医師等の受入研修を実施しました

韓国医師等の受入研修を10月と2月に2回実施しました。
参加いただいた皆様からこのような感想をいただきました。

第1回 平成29年10月22日～26日



慎 東揆 (シン・ドンギユ)

ソウル赤十字病院 外科 腫瘍医

腫瘍外科医の私は癌の手術は担当してきましたが癌発生の原因については無関心でした。今回研修を通じて原爆被害は想像より遥かに大きいし長期的だと分かりました。

それから日本人が原爆被ばく後影響に対する研究と被爆者に配慮する努力をみて感銘を受けました。

長崎大学の先生たちの講義が充実してよかったです。

ナシムと長崎県関係者の皆様に感謝します。

今回の研修で被ばくの危険を知り今後の医療現場で役立てたいと思います。



李 禮多 (イ・イエダ)

仁川赤十字病院 看護師

今回研修に参加して期待以上の成果があって充実した時間を過ごせました。

被ばくについて韓国で考えたこともなかったですが、今回の研修で考えるようになりました。韓国に戻っても少しでも被爆者の役に立てるように頑張りたいと思います。



李 眞英 (イ・ジンヨン)

尚州赤十字病院 看護師

まず長崎県関係者の皆さんの親切な対応は忘れられません。

原爆が人類に与える被害の恐ろしさをもう一度考える機会になりました。



催 賢佑 (チェ・ヒョンウ)

統營赤十字病院 看護師

今回招待して下さったナシムの皆様に感謝いたします。
原爆被爆者の健康管理システムが本当に感動でした。
講義より現場見学が役に立ったと思います。
研修の日程が短いのが残念でした。



芮 智媛 (イエ・ジウオン)

嶺南大学医療院 放射線腫瘍学 博士

被ばく後長い間続けられた研究と管理が印象的でした。
今回を機会にもっとたくさんの韓国人に放射線の怖さを知ってもらいたいと思いました。



趙 善國 (チョ・ソングク)

釜山広域市病院 リハビリ医学 医師

たくさんの講義に感謝します。
もっといろいろな方面からの講義も機会があれば聞きたいです。
恵の丘での被爆体験者の体験の話に心が痛みました。
韓国についても興味を持ってきている長崎県の関係者の皆さんとナシムに感謝します。



宋 振兒 (ソン・ジナ)

韓国原子力医学院 医療技術者

長崎県関係者の皆さんお疲れ様でした。
恵の丘での体験話が悲しかったです。
今後も被ばく被害に関する活発的な活動に期待します。



KIM YOUNGRONG (キム・ヨンロン)

韓国原子力医学院 看護師

全部の日程がよかったです。
研修期間が長いともっと良いかと思えます。
関係者の皆様に感謝します。



李 相喆 (イ・サン Chol)

蔚山大学病院 救急医療 看護師

今回招待してくださったナシムと会長に感謝いたします。
長崎大学の先生方ありがとうございました。
原子力発電所近くで勤務してきた私ですが、放射線事故と被爆の恐怖について勉強になりました。
日程が短く残念でしたが、関係者の皆様お疲れ様でした。



ナシム 蔚本会長と

第2回 平成30年1月21日～25日



李 惠苑 (イ・ヘウン)

ソウル赤十字病院 看護師

今回の研修を通じて放射線被ばくの基本知識を知ることができて被爆者の痛みを共感しました。現在、世界のどこも原爆から安全な国がない中、原子力を使うときの慎重な判断と万が一の事態に対応できる準備が必要だと思います。

被ばく以来、長い間研究に関わっているナシムに強い印象を受けました。

今回、インフルエンザの流行で恵の丘訪問が中止となり、現場の医療支援を見ることができなかったことは看護師の私にとって残念なことでした。

最後に長崎県の職員に感謝します。



文 碩鐘 (ムン・ソクジョン)

仁川赤十字病院 泌尿器科 医師

予想よりハードな日程で疲れました。でも日ごろ放射線についての少ない知識だったのが今回の研修で具体的に分かりその危険性と深刻さを考えるようになりました。

特に泌尿器科疾患の発生率が高いことは泌尿器科医師の私にとって勉強になりました。

長崎県関係者の皆様に感謝するとともに原爆被爆で亡くなった皆様に追悼いたします。



許 正子 (ホ・ソンジャ)

慶熙医療院 看護師

初日、空港の迎えからいたるところで研修生に対する配慮に感動しました。深く考えず研修に参加しましたが、後から原爆に対して関心を持つことができました。

特に、日本全体で責任感を持って被爆者にいろんな面で努力する姿勢を知り今までの日本に対してのイメージが変わりました。長崎の路面電車に乗って日本人の生活も身近に感じました。是非もう一度長崎に来たいと思います。ナシムの関係者の皆様に感謝します。



朴 漢姿 (パク・ミジャ)

尚州赤十字病院 看護師

3日間の研修で原爆の恐ろしさと被爆者に対する理解が深まったと思います。
1日目、原爆資料館を見学した際に細かい説明と色々な資料を大切に保存しているのを見て日本人が原爆に向かう姿勢を感じました。

2日目、長崎大学での講義は原爆の被害分析を土台に被爆者健康に関しての追跡研究結果を学びました。ただ英語での授業で私には少し理解が難しい事もありました。

3日目、原爆病院見学は講義で学んだ知識のおかげで理解しやすかったです。

研修の間、市内視察と平和公園、長崎県庁訪問は長崎の過去、現在、未来を予想することができました。意見交換会でのナシム関係者との交流も忘れられない思い出になりました。

今回の研修で学んだ知識と思ったことを現場に戻って役に立つように頑張りたいと思いました。



宋 弼鉉 (ソン・ピルヒョン)

嶺南大学医療院 泌尿器科 医師

まず研修の機会をくださったナシム関係者の皆様に感謝致します。

特にお忙しい中歓迎してくださった蒔本会長にもう一度感謝します。

テレビなどで聞いたことより原爆の被害に関する本物の資料、映像を見られる良い機会になりました。北朝鮮との政治的な問題で話題になっている原爆の危険

性についてももう一度考えるべきだと思いました。

私は泌尿器科の医師で原爆と腫瘍との関係も興味を持つ事になりました。

最後に長崎県の関係者の皆様に感謝します。



徐 國順 (ソ・コクスン)

釜山報勲病院 看護師

今回研修を通じて戦争の恐怖をもう一度考える機会になりました。

戦争はどれだけの犠牲を伴うものか皆で考えないといけないと思いました。

研修で原爆、それから被爆者についてもよく理解する機会になりました。

今後、二度とこのような被害がないように皆で力を合わせないといけないと思

います。

研修に関わった皆様に感謝します。



李 羊姬 (イ・ヤンヒ)

韓国原子力医学院 医療技術者

ナシム研修に参加させてくださりありがとうございました。

原爆後、長い時間が経ち長崎の町は痛みがあったように見えないが、まだ被爆者の苦しみは続いていることを知り心が重くなりました。

特に原爆資料館での展示物や説明を聞きながら今回研修の意義を考えました。

研修の内容は充実していて良かったです。

今後可能であれば放射線事故の対策などについての講義もあつたらいいと思います。

関係者の皆様にもう一度感謝いたします。



金 民燮 (キム・ミンソプ)

韓国原子力医学院 医療技術者

いろんな講義を専門家の先生から学び、施設も見学でき非常に印象深い研修になりました。

特に原爆資料館が一番印象に残りました。

最後にナシムと長崎県の関係者の皆様に感謝します。



文 潤柱 (ムン・ユンジユ)

同江病院 救急医療 医師

原爆被害に関して分かりやすいように展示されている原爆資料館と長崎大学を中心に行われている研究に驚きました。

韓国は北朝鮮との関係で核の危険に関心が高まっている状況でどのように対策を立てないといけないか日本と情報交換などが必要だと思います。



劉 大成 (ユ・デソン)

同国大学慶州病院 医療技術者

親切に対応してくださった長崎県の関係者に感謝します。

お疲れ様でした。



長崎原爆死没者追悼平和祈念館にて

「漫画で学ぶ長崎原爆」

出版部数25,000部（平成30年3月出版）

ナシムホームページでご覧になれます。



小中学生向けの小冊子「漫画で学ぶ長崎原爆」を作成しました。

原爆投下前の長崎、原爆投下、終戦と復興を漫画でわかりやすく説明しています。

長崎原爆についての資料も添付しており、小学生、中学生の皆さんにも学びやすい冊子となっております。

ぜひ、ご一読ください。

第12回永井隆平和記念・長崎賞の候補者を募集

ナシムでは、長崎原子爆弾被爆50周年にあたる平成7年に、原子爆弾により自らも重症を負いながらも被爆者の救護に挺身された永井博士の功績を称え、「永井隆平和記念・長崎賞」を創設しています。

この賞は永井隆博士の崇高な平和希求の精神を引き継ぐ国際社会におけるヒバクシャ医療への貢献者を顕彰するものですが、平成30年度は第12回目を実施予定です。

5月から候補者の募集を開始する予定ですので、本賞の候補者としてふさわしい方をぜひご推薦ください。

詳細については随時ホームページでお知らせします。



小中学校で出前出張講座を開催します

ヒバクシャ医療の国際協力や放射線被ばく医療等についての知識を普及するため、長崎大学の先生方が小中学校へ出向いて講義を行う出前講座を実施いたします。平和と科学・医療に関する国際協力への興味・関心を促すことの出来る楽しい講座です。

下記の幅広いメニューを小中学生の皆さんに分かりやすく説明いたしますので、興味をお持ちでしたらぜひ事務局までご連絡ください。



長崎市立深堀小学校

講座メニュー	
放射線って何？－身近な放射線の話	
放射線・紫外線と私たちの健康	
長崎原爆の話	原爆直後の救護活動と調査
	長崎原爆被爆者のこころの調査
放射線といのち	

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会通信
第43号

発行／平成30年3月

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会(NASHIM)
〒850-8570 長崎市尾上町3-1(長崎県原爆被爆者援護課内)
TEL 095(895)2475 FAX 095(895)2578
<http://www.nashim.org/>